



Linux KVMでの展開

- [前提条件とガイドライン](#) (1 ページ)
- [Linux KVM での Nexus ダッシュボードの展開](#) (2 ページ)

前提条件とガイドライン

Linux KVM で Nexus ダッシュボード クラスタを展開する前に、次の作業を行う必要があります。

- ファクターから KVM が拡張性とサービス要件をサポートしていることを確認します。
クラスタ フォーム ファクタに基づいて、拡張性とサービス サポートおよび共同ホストは異なります。[Nexus ダッシュボード キャパシティ プランニング ツール](#)を使用して、仮想フォーム ファクタが展開要件を満たすことを確認できます。
- **前提条件** : [Nexus Dashboard](#) に記載されている一般的な前提条件を確認して完了します。
- 展開予定のサービスのリリースノートに説明されている追加の前提条件を確認し、条件を満たすようにしてください。
- 十分なシステム リソースをもつことを確認します。

表 1: 導入要件

要件
<ul style="list-style-type: none"> • KVM の展開は、Nexus Dashboard ファブリック コントローラでのみサポートされません。 • CentOS 7.9 または Red Hat Enterprise Linux 8.6 に展開する必要があります。 • Kernel および KVM のサポートされるバージョンが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> • CentOS 7.9 の場合、Kernel バージョン 3.10.0-957.el7.x86_64 および KVM バージョン libvirt-4.5.0-23.el7_7.1.x86_64 • RHEL 8.6 の場合、Kernel バージョン 4.18.0-372.9.1.el8.x86_64 および KVM バージョン libvirt 8.0.0 • 16 vCPU • 64 GB の RAM • 550 GB のディスク 各ノードには専用のディスク パーティションが必要です。 • ディスクの I/O 遅延は 20 ミリ秒以下である必要があります。 I/O レイテンシを確認するには： <ol style="list-style-type: none"> 1. テストディレクトリを作成します。 test-data のような名前にします。 2. 次のコマンドを実行します。 <pre># fio --rw=write --ioengine=sync --fdatasync=1 --directory=test-data --size=22m --bs=2300 --name=mytest</pre> 3. コマンドの実行後に、fsync/fdatasync/sync_file_range セクションの 99.00th=[<value>] が 20 ミリ秒未満であることを確認します。 • 各 Nexus Dashboard ノードは異なる KVM ハイパーバイザに展開することを推奨します。

Linux KVM での Nexus ダッシュボードの展開

ここでは、Linux KVM で Cisco Nexus ダッシュボード クラスタを展開する方法について説明します。

始める前に

- [前提条件とガイドライン \(1 ページ\)](#) に記載されている要件とガイドラインを満たしていることを確認します。

手順

ステップ 1 Cisco Nexus ダッシュボード イメージをダウンロードします。

- a) [ソフトウェア ダウンロード (Software Download)] ページを参照します。

<https://software.cisco.com/download/home/286327743/type/286328258>

- b) [Nexus ダッシュボード ソフトウェア] をクリックします。

- c) 左側のサイドバーから、ダウンロードする Nexus ダッシュボードのバージョンを選択します。

- d) Linux KVM の Cisco Nexus ダッシュボード イメージをダウンロードします (nd-dk9.<version>.qcow2)。

ステップ 2 ノードをホストする Linux KVM サーバにイメージをコピーします。

scp を使用してイメージをコピーできます。次に例を示します。

```
# scp nd-dk9.<version>.qcow2 root@<kvm-host-ip>:/home/nd-base
```

次の手順は、イメージを /home/nd-base ディレクトリにコピーしたことを前提としています。

ステップ 3 最初のノードに必要なディスクイメージを作成します。

ダウンロードしたベース qcow2 イメージのスナップショットを作成し、そのスナップショットをノードの VM のディスク イメージとして使用します。また、ノードごとに2番目のディスクイメージを作成する必要があります。

- a) KVM ホストに root ユーザとしてログインします。

- b) ノードのスナップショット用のディレクトリを作成します。

次の手順は、/home/nd-node1 ディレクトリにスナップショットを作成することを前提としています。

```
# mkdir -p /home/nd-node1/  
# cd /home/nd-node1
```

- c) スナップショットを作成します。

次のコマンドで、/home/nd-base//nd-dk9.<version>.qcow2 を以前のステップで作成したベースイメージの場所に置換します。

```
# qemu-img create -f qcow2 -b /home/nd-base/nd-dk9.<version>.qcow2  
/home/nd-node1/nd-node1-disk1.qcow2
```

(注) RHEL 8.6 で展開する場合は、宛先スナップショットの形式を定義するための追加のパラメータも指定する必要があります。その場合は、上記のコマンドを次のように更新します。

```
# qemu-img create -f qcow2 -b /home/nd-base/nd-dk9.2.1.1a.qcow2  
/home/nd-node1/nd-node1-disk1.qcow2 -F qcow2
```

- d) ノードの追加ディスクイメージを作成します。

各ノードには2つのディスクが必要です。ベースの Nexus ダッシュボード qcow2 イメージのスナップショットと、2番目の 500GB ディスクです。

```
# qemu-img create -f qcow2 /home/nd-node1/nd-node1-disk2.qcow2 500G
```

ステップ 4 前のステップを繰り返して、2番目と3番目のノードのディスクイメージを作成します。

次の手順に進む前に、次の準備が必要です。

- 1つ目のノードの場合、2つのディスクイメージがある /home/nd-node1/ ディレクトリ：
 - /home/nd-node1/nd-node1-disk1.qcow2 は、ステップ1でダウンロードしたベース qcow2 イメージのスナップショットです。
 - /home/nd-node1/nd-node1-disk2.qcow2。これは、作成した新しい 500GB のディスクです。
- 2つ目のノードの場合、2つのディスクイメージがある /home/nd-node2/ ディレクトリ。
 - /home/nd-node2/nd-node2-disk1.qcow2 は、ステップ1でダウンロードした基本 qcow2 イメージのスナップショットです。
 - /home/nd-node2/nd-node2-disk2.qcow2。これは、作成した新しい 500GB のディスクです。
- 3つ目のノードの場合、2つのディスクイメージがある /home/nd-node3/ ディレクトリ。
 - /home/nd-node1/nd-node3-disk1.qcow2。ステップ1でダウンロードしたベース qcow2 イメージのスナップショットです。
 - /home/nd-node1/nd-node3-disk2.qcow2。これは、作成した新しい 500GB のディスクです。

ステップ 5 最初のノードの VM を作成します。

- a) KVM コンソールを開き、**[新しい仮想マシン (New Virtual Machine)]** をクリックします。
コマンドラインから virt-manager コマンドを使用して KVM コンソールを開くことができます。
- b) **[新しい VM (New VM)]** 画面で、**[既存のディスクイメージのインポート (import existing disk image)]** オプションを選択し、**[転送 (Forward)]** をクリックします。
- c) **[既存のストレージパスを指定 (Provide existing storage path)]** フィールドで **[参照 (Browse)]** をクリックし、nd-node1-disk1.qcow2 ファイルを選択します。
各ノードのディスクイメージは、それぞれのディスクパーティションに保存することを推奨します。
- d) **OS タイプとバージョン** に対して [Generic] を選択し、**[転送]** をクリックします。
- e) 64GB のメモリと 16 個の CPU を指定し、**[転送 (Forward)]** をクリックします。
- f) 仮想マシンの名前 (例: nd-node1) を入力し、**[インストール前に構成をカスタマイズする (Customize configuration before install)]** オプションをオンにします。次に、**[完了 (Finish)]** をクリックします。
(注) ノードに必要なディスクとネットワークカードをカスタマイズできるようにするには、**[インストール前に構成をカスタマイズする]** チェックボックスをオンにする必要があります。

[VMの詳細]ウィンドウが開きます。

[VMの詳細]ウィンドウで、NICのデバイスモデルを変更します。

- NIC <mac> を選択します。
- [デバイス モデル] で、[e1000] を選択します。
- [ネットワーク ソース (Network Source)] で、ブリッジデバイスを選択し、「mgmt」ブリッジの名前を指定します。

VMの詳細ウィンドウで、2番目のNICを追加します。

- [ハードウェアを追加 (Add Hardware)] をクリックします。
- [新しい仮想ハードウェアの追加 (Add new virtual hardware)] ウィンドウで、[ネットワーク] を選択します。
- [ネットワーク ソース (Network Source)] で、ブリッジデバイスを選択し、作成した「データ」ブリッジの名前を指定します。
- デフォルトの **MAC アドレス** の値のままにします。
- [デバイス モデル] で、[e1000] を選択します。

[VMの詳細 (VM details)] ウィンドウで、2番目のディスクイメージを追加します。

- [ハードウェアを追加 (Add Hardware)] をクリックします。
- [新しい仮想ハードウェアの追加] 画面で、[ストレージ] を選択します。
- ディスクのバス ドライバについては、[IDE] を選択します。
- [カスタムストレージの選択または作成 (Select or create custom storage)] を選択し、[管理 (Manage)] をクリックして、作成した nd-node1-disk2.qcow2 ファイルを選択します。
- [終了 (Finish)] をクリックして2番目のディスクを追加します。

(注) 仮想マシンマネージャのUIで [ホスト CPU 設定のコピー (Copy host CPU configuration)] オプションが有効になっていることを確認します。

最後に、[インストールの開始 (Begin Installation)] をクリックして、ノードのVMの作成を終了します。

ステップ 6 以前のステップを繰り返し、2番目と3番目のノードを展開して、すべてのVMを開始します。

(注) 単一のノードクラスタを展開している場合は、この手順をスキップできます。

ステップ 7 ノードのコンソールのいずれかを開き、ノードの基本情報を設定します。

- いずれかのキーを押して、初期設定を開始します。

初回セットアップユーティリティの実行を要求するプロンプトが表示されます。

```
[ OK ] Started atomix-boot-setup.
      Starting Initial cloud-init job (pre-networking)...
      Starting logrotate...
      Starting logwatch...
      Starting keyhole...
[ OK ] Started keyhole.
[ OK ] Started logrotate.
[ OK ] Started logwatch.
```

Press any key to run first-boot setup on this console...

- admin パスワードを入力して確認します。

このパスワードは、`rescue-user` SSH ログインおよび初期 GUI パスワードに使用されます。

- (注) すべてのノードに同じパスワードを指定する必要があります。指定しない場合、クラスタ作成に失敗します。

```
Admin Password:
Reenter Admin Password:
```

- c) 管理ネットワーク情報を入力します。

```
Management Network:
IP Address/Mask: 192.168.9.172/24
Gateway: 192.168.9.1
```

- d) 最初のノードのみ、「クラスタ リーダー」として指定します。

クラスタ リーダー ノードにログインして、設定を完了し、クラスタの作成を完了します。

```
Is this the cluster leader?: y
```

- e) 入力した譲歩をレビューし、確認します。

入力した情報を変更するかどうかを尋ねられます。すべてのフィールドが正しい場合は、`n`を選択して続行します。入力した情報を変更する場合は、`y`を入力して基本設定スクリプトを再起動します。

```
Please review the config
Management network:
  Gateway: 192.168.9.1
  IP Address/Mask: 192.168.9.172/24
Cluster leader: yes
```

```
Re-enter config? (y/N): n
```

- ステップ 8** 前の手順を繰り返して、2 番目と 3 番目のノードの初期情報を構成します。

最初のノードの設定が完了するのを待つ必要はありません。他の 2 つのノードの設定を同時に開始できます。

- (注) すべてのノードに同じパスワードを指定する必要があります。指定しない場合、クラスタ作成に失敗します。

2 番目と 3 番目のノードを展開する手順は同じですが、**クラスタ リーダー**ではないことを示す必要がある点が異なります。

- ステップ 9** 初期ブートストラッププロセスを待機して、すべてのノードで完了します。

管理ネットワーク情報を入力して確認すると、最初のノード（クラスタ リーダー）初期設定でネットワークキングが設定され、UI が表示されます。この UI を使用して、他の 2 つのノードを追加し、クラスタの展開を完了します。

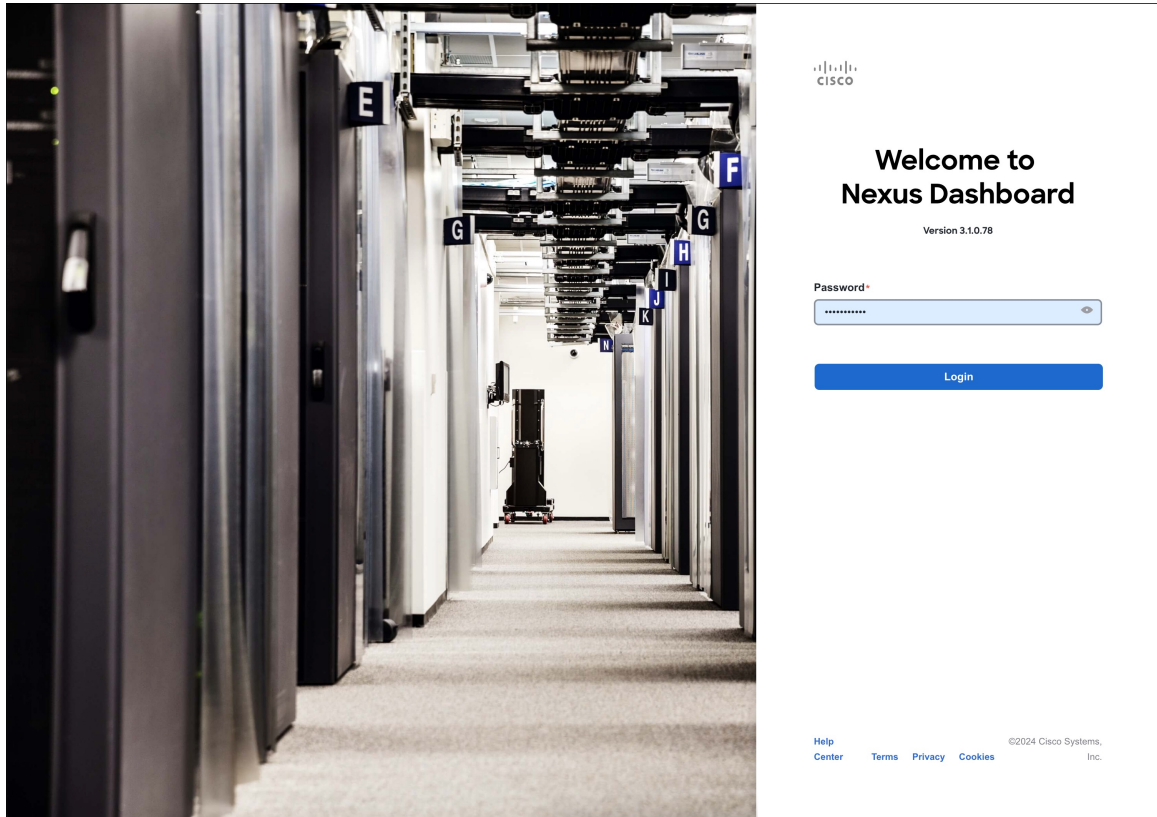
```
Please wait for system to boot: [#####] 100%
System up, please wait for UI to be online.
```

```
System UI online, please login to https://192.168.9.172 to continue.
```

- ステップ 10** ブラウザを開き、`https://<node-mgmt-ip>` に移動して、GUI を開きます。

残りの設定ワークフローは、ノードの GUI の 1 つから実行します。展開したノードのいずれか 1 つを選択して、ブートストラッププロセスを開始できます。他の 2 つのノードにログインしたり、これらを直接構成したりする必要はありません。

前の手順で入力したパスワードを入力し、[ログイン (Login)] をクリックします。



ステップ 11 [クラスタの詳細 (Cluster Details)] を入力します。

[クラスタ起動 (Cluster Bringup)] ウィザードの [クラスタの詳細 (Cluster Details)] 画面で、次の情報を入力します。

Cluster Bringup
Answer some questions, select the services you want to enable and have Nexus Dashboard ready to use in a few minutes.

Configuration
Provide the cluster name and configure the DNS, NTP and Proxy to set up Nexus Dashboard and bring up the user interface

1 Configuration

Nexus Dashboard Cluster Name *

nd-cluster

Enable IPv6

DNS

DNS Provider IP Address *

171.70.168.183

+ Add DNS Provider

DNS Search Domain

+ Add DNS Search Domain

NTP

NTP Authentication

NTP Host *	Key ID	Preferred
171.68.38.65		true

+ Add NTP Host Name/IP Address

Proxy [Skip Proxy](#)

Ignore Hosts

+ Add Ignore Host

Proxy Server *

Authentication required for proxy

Advanced Settings

App Network *

172.17.0.1/16

Service Network *

100.80.0.0/16

App Network IPv6

2000::/108

Service Network IPv6

3000::/108

[Next](#)

- a) Nexus ダッシュボード クラスターの [クラスタ名 (Cluster Name)] を入力します。
クラスタ名は、RFC-1123 の要件に従う必要があります。
- b) (オプション) クラスターの IPv6 機能を有効にする場合は、[IPv6 を有効にする (Enable IPv6)] チェックボックスをオンにします。
- c) [+DNS プロバイダの追加 (+Add DNS Provider)] をクリックして、1つ以上の DNS サーバを追加します。

情報を入力した後、チェックマーク アイコンをクリックして保存します。

- d) (オプション) **[+DNS 検索ドメインの追加 (+Add DNS Search Domain)]** をクリックして、検索ドメインを追加します。

情報を入力した後、チェックマーク アイコンをクリックして保存します。

- e) (オプション) NTP サーバー認証を有効にする場合には、**[NTP 認証 (NTP Authentication)]** チェックボックスをオンにし、**[NTP キーの追加 (Add NTP Key)]** をクリックします。

次のフィールドで、以下の情報を提供します。

- **NTP キー** : Nexus ダッシュボードと NTP サーバ間の NTP トラフィックを認証するために使用される暗号キー。次の手順で NTP サーバーを定義します。複数の NTP サーバで同じ NTP キーを使用できます。
- **キー ID** : 各 NTP キーに一意的なキー ID を割り当てる必要があります。この ID は、NTP パケットの検証時に使用する適切なキーを識別するために使用されます。
- **認証タイプ** : このリリースでは、MD5、SHA、および AES128CMAC 認証タイプがサポートされています。
- このキーが**信頼**できるかどうかを選択します。信頼できないキーは NTP 認証に使用できません。

(注) 情報を入力した後、チェックマーク アイコンをクリックして保存します。

NTP 認証の要件とガイドラインの完全なリストについては、[前提条件とガイドライン](#)を参照してください。

- f) **[+NTP ホスト名/IP アドレスの追加 (+Add NTP Host Name/IP Address)]** をクリックして、1つ以上の NTP サーバを追加します。

次のフィールドで、以下の情報を提供します。

- **NTP ホスト** : IP アドレスを指定する必要があります。完全修飾ドメイン名 (FQDN) はサポートされていません。
- **キー ID** : このサーバーの NTP 認証を有効にする場合は、前の手順で定義した NTP キーのキー ID を指定します。
NTP 認証が無効になっている場合、このフィールドはグレー表示されます。
- この NTP サーバーを **[優先 (Preferred)]** にするかどうかを選択します。

情報を入力した後、チェックマーク アイコンをクリックして保存します。

(注) ログインしているノードに IPv4 アドレスのみが設定されているが、前の手順で [IPv6 を有効にする (Enable IPv6)] をオンにして NTP サーバーの IPv6 アドレスを指定した場合は、次の検証エラーが表示されます。

NTP Host*	Key ID	Preferred
2001:420:28e:202a:5054:ff:fe6f:b3f6		true

[Add NTP Host Name/IP Address](#)

△ Could not validate one or more hosts Can not reach NTP on Management Network

これは、ノードに IPv6 アドレスがまだなく (次の手順で指定します)、NTP サーバーの IPv6 アドレスに接続できないためです。

この場合、次の手順の説明に従って他の必要な情報の入力を完了し、[次へ (Next)] をクリックして次の画面に進み、ノードの IPv6 アドレスを入力します。

追加の NTP サーバーを指定する場合は、[+NTP ホストの追加 (+Add NTP Host)] を再度クリックし、このサブステップを繰り返します。

g) [プロキシ サーバー (Proxy Server)] を指定し、[検証 (Validate)] をクリックします。

Cisco Cloud に直接接続できないクラスタの場合は、接続を確立するためにプロキシ サーバを構成することをお勧めします。これにより、ファブリック内の非適合ハードウェアおよびソフトウェアにさらされるリスクを軽減できます。

[+無視するホストを追加 (+Add Ignore Host)] をクリックして、プロキシをスキップする 1 つ以上の IP アドレス通信を提供することもできます。

プロキシ サーバーでは、次の URL が有効になっている必要があります。

```
dcappcenter.cisco.com
svc.intersight.com
svc.ucs-connect.com
svc-static1.intersight.com
svc-static1.ucs-connect.com
```

プロキシ設定をスキップする場合は、[プロキシをスキップ (Skip Proxy)] をクリックします。

h) (オプション) プロキシ サーバで認証が必要な場合は、[プロキシで認証が必要 (Authentication required for Proxy)] を [はい (Yes)] に変更し、ログイン資格情報を指定します。

i) (オプション) [詳細設定 (Advanced Settings)] カテゴリを展開し、必要に応じて設定を変更します。

詳細設定では、次の設定を行うことができます。

- カスタム App Network と Service Network を提供します。

アプリケーション オーバーレイ ネットワークは、Nexus ダッシュボードで実行されるアプリケーションのサービスで使用されるアドレス空間を定義します。このフィールドには、デフォルトの 172.17.0.1/16 値が事前に入力されています。

サービスネットワークは、Nexus ダッシュボードとそのプロセスで使用される内部ネットワークです。このフィールドには、デフォルトの 100.80.0.0/16 値が事前に入力されています。

以前に **[IPv6 を有効にする (Enable IPv6)]** オプションをオンにした場合は、アプリケーションネットワークとサービスネットワークの IPv6 サブネットを定義することもできます。

アプリケーションおよびサービスネットワークについては、このドキュメントの前の [前提条件とガイドライン](#) の項で説明します。

j) **[次へ (Next)]** をクリックして続行します。

ステップ 12 **[ノードの詳細 (Node Details)]** 画面で、最初のノードの情報を更新します。

前の手順の初期ノード構成時に現在ログインしているノードの管理ネットワークと IP アドレスを定義しましたが、他のプライマリノードを追加し、クラスタを作成する進む前に、ノードのデータネットワーク情報も指定する必要があります。

The screenshot shows the 'Cluster Bringup' configuration page in the Cisco Nexus Dashboard. The 'Node Details' step is active, showing a network diagram and a table for node configuration.

Node Details
Register Nexus Dashboard nodes to form a cluster and adjust their settings to allow communication between them and to your sites.
[Learn More](#)

The network diagram illustrates the cluster architecture, including NSk Switches, Data Network, L2/L3, and three Nexus Dashboard Nodes (Node 1, Node 2, Node 3) connected to a Management Network.

Serial Number	Name	Type	Management Network	Data Network
E5998163D6F0		Primary	IPv4 Address: 172.23.141.129/21 IPv4 Gateway: 172.23.136.1	IPv4 Address: - IPv4 Gateway: - VLAN: -

Buttons: [Add Node](#), [Back](#), [Next](#)

© Cisco Systems, Inc. Current date and time is Sunday, January 14, 03:59 PM (PST) [Contacts](#) [Privacy Statement](#)

Edit Node



General

Name *

Serial Number *

Type *

Management Network ⓘ

IPv4 Address/Mask *

IPv4 Gateway *

IPv6 Address/Mask

IPv6 Gateway

Data Network ⓘ

IPv4 Address/Mask *

IPv4 Gateway *

IPv6 Address/Mask

IPv6 Gateway

VLAN ⓘ

Enable BGP

- a) 最初のノードの横にある [編集 (Edit)] ボタンをクリックします。

ノードの[シリアル番号 (Serial Number)]、[管理ネットワーク (Management Network)]情報、および[タイプ (Type)]が自動的に入力されます。ただし、他の情報は手動で入力する必要があります。

- b) ノードの [名前 (Name)] を入力します。

ノードの **名前** はホスト名として設定されるため、[RFC-1123](#) の要件に従う必要があります。

- c) [タイプ (Type)] ドロップダウンから [プライマリ (Primary)] を選択します。

クラスタの最初の3つのノードは [プライマリ (Primary)] に設定する必要があります。サービスの共同ホスティングや、より大規模なスケールを有効にする必要がある場合は、後の手順でセカンダリノードを追加します。

- d) [データ ネットワーク (Data Network)] エリアで、ノードの **データ ネットワーク** を提供します。

データ ネットワークの IP アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイを指定する必要があります。オプションで、ネットワークの VLAN ID を指定することもできます。ほとんどの導入では、[VLAN ID] フィールドを空白のままにできます。

前の画面で IPv6 機能を有効にした場合は、IPv6 アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイも入力する必要があります。

(注) IPv6 情報を提供する場合は、クラスタブートストラッププロセス中に行う必要があります。後で IP 構成を変更するには、クラスタを再展開する必要があります。

クラスタ内のすべてのノードは、IPv4のみ、IPv6のみ、またはデュアルスタック IPv4/IPv6 のいずれかで構成する必要があります。

- e) (オプション) クラスタが L3 HA モードで展開されている場合は、データ ネットワークの [BGP を有効にする (Enable BGP)] をオンにします。

Insights やファブリック コントローラなどの、一部のサービスで使用される永続的な IP 機能には、BGP 構成が必要です。この機能については、[前提条件とガイドライン](#) と『[Cisco Nexus Dashboard ユーザーガイド](#)』の「永続的な IP アドレス」セクションで詳しく説明されています。

(注) BGP をこの時点で、またはクラスタの展開後に Nexus ダッシュボード GUI で有効にすることができます。

BGP を有効にする際、次の情報も入力する必要があります。

- このノードの **ASN** (BGP 自律システム番号)。

すべてのノードに同じ ASN を構成することも、ノードごとに異なる ASN を構成することもできます。

- 純粋な IPv6 の場合、このノードの **ルータ ID**。

ルータ ID は、1.1.1.1 などの IPv4 アドレスである必要があります。

- ピアの IPv4 または IPv6 アドレスとピアの ASN を含む **BGP ピアの詳細**。

- f) [Save] をクリックして、変更内容を保存します。

ステップ 13 [ノードの詳細 (Node Details)] 画面で、[ノードの追加 (Add Node)] をクリックして、クラスタに 2 番目のノードを追加します。

単一ノードクラスタを展開する場合は、この手順をスキップします。

Edit Node



General

Name *

Serial Number *

Type *

Management Network ⓘ

IPv4 Address/Mask *

IPv4 Gateway *

IPv6 Address/Mask

IPv6 Gateway

Data Network ⓘ

IPv4 Address/Mask *

IPv4 Gateway *

IPv6 Address/Mask

IPv6 Gateway

VLAN ⓘ

Enable BGP

- a) [展開の詳細 (Deployment Details)] エリアで、2 番目のノードに [管理 IP アドレス (Management IP Address)] および [パスワード (Password)] を指定します。

ノードの初期構成手順で、管理ネットワーク情報とパスワードを定義しました。

- b) **[検証 (Validate)]** をクリックして、ノードへの接続を確認します。

接続が検証されると、ノードのシリアル番号と管理ネットワーク情報が自動的に入力されます。

- c) ノードの **[名前 (Name)]** を入力します。

- d) **[タイプ (Type)]** ドロップダウンから **[プライマリ (Primary)]** を選択します。

クラスタの最初の3つのノードは **[プライマリ (Primary)]** に設定する必要があります。サービスの共同ホスティングや、より大規模なスケールを有効にする必要がある場合は、後の手順でセカンダリノードを追加します。

- e) **[データ ネットワーク (Data Network)]** エリアで、ノードの **データ ネットワーク** を提供します。

データ ネットワークの IP アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイを指定する必要があります。オプションで、ネットワークの VLAN ID を指定することもできます。ほとんどの導入では、**[VLAN ID]** フィールドを空白のままにできます。

前の画面で IPv6 機能を有効にした場合は、IPv6 アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイも入力する必要があります。

(注) IPv6 情報を提供する場合は、クラスタブートストラッププロセス中に行う必要があります。後で IP 構成を変更するには、クラスタを再展開する必要があります。

クラスタ内のすべてのノードは、IPv4のみ、IPv6のみ、またはデュアルスタック IPv4/IPv6 のいずれかで構成する必要があります。

- f) (任意) 必要に応じて、データ ネットワークの **BGP を有効に** します。

Insights やファブリック コントローラなどの、一部のサービスで 사용되는永続的な IP 機能には、BGP 構成が必要です。この機能については、[前提条件とガイドライン](#) と『[Cisco Nexus Dashboard ユーザーガイド](#)』の「永続的な IP アドレス」セクションで詳しく説明されています。

(注) BGP をこの時点で、またはクラスタの展開後に Nexus ダッシュボード GUI で有効にすることができます。

BGP を有効にする際、次の情報も入力する必要があります。

- このノードの **ASN (BGP 自律システム番号)** 。
すべてのノードに同じ ASN を構成することも、ノードごとに異なる ASN を構成することもできます。
- 純粋な IPv6 の場合、このノードの **ルータ ID** 。
ルータ ID は、1.1.1.1 などの IPv4 アドレスである必要があります。
- ピアの IPv4 または IPv6 アドレスとピアの ASN を含む **BGP ピアの詳細**。

- g) **[Save]** をクリックして、変更内容を保存します。

- h) クラスタの最後の (3 番目の) プライマリ ノードでこの手順を繰り返します。

ステップ 14 [ノードの詳細 (Node Details)] ページで、入力した情報を確認し、[次へ (Next)] をクリックして続行します。

The screenshot shows the 'Node Details' page in the Nexus Dashboard. On the left, a navigation menu includes Overview, Manage, Analyze, and Admin. The main content area is titled 'Cluster Bringup' and includes a sub-header 'Node Details' with the instruction: 'Register Nexus Dashboard nodes to form a cluster and adjust their settings to allow communication between them and to your sites. Learn More'. Below this is a network diagram showing three Nexus Dashboard nodes connected to a central L2/L3 switch, which is connected to a Management Network and a Data Network. A table below the diagram lists the nodes with their serial numbers, names, types, and network configurations.

Serial Number	Name	Type	Management Network	Data Network
E5998163D6F0	nd-node1	Primary	IPv4 Address: 172.23.141.129/21 IPv4 Gateway: 172.23.136.1	IPv4 Address: 172.31.140.68/21 IPv4 Gateway: 172.31.136.1 VLAN: -
B24A80654FA1	nd-node2	Primary	IPv4 Address: 172.23.141.130/21 IPv4 Gateway: 172.23.136.1	IPv4 Address: 172.31.140.70/21 IPv4 Gateway: 172.31.136.1 VLAN: -
F372DC0B8069	nd-node3	Primary	IPv4 Address: 172.23.141.131/21 IPv4 Gateway: 172.23.136.1	IPv4 Address: 172.31.140.72/21 IPv4 Gateway: 172.31.136.1 VLAN: -

At the bottom of the table, there is an 'Add Node' button. A 'Next' button is located at the bottom right of the page.

ステップ 15 クラスタのデプロイメントモードを選択します。

a) 有効にするサービスを選択します。

リリース 3.1(1) より前では、クラスタの初期展開が完了した後に、個々のサービスをダウンロードしてインストールする必要がありました。今では、初期インストール時にサービスを有効にするように選択できます。

(注) クラスタ内のノードの数によっては、一部のサービスまたは共同ホスティングのシナリオがサポートされない場合があります。必要な数のサービスを選択できない場合は、[戻る (Back)] をクリックし、前の手順で十分な数のセカンダリ ノードを指定したことを確認します。

b) [永続サービスIP/プールの追加 (Add Persistent Service IPs/Pool)] をクリックして、Insights またはファブリック コントローラ サービスに必要な 1 つ以上の永続 IP を指定します。

永続的 IP の詳細については、ユーザーガイドの [前提条件とガイドライン](#) のセクションを参照してください。

c) [次へ (Next)] をクリックして続行します。

ステップ 16 [サマリー (Summary)] 画面で設定情報を見直して確認し、[保存 (Save)] をクリックしてクラスタを構築します。

ノードのブートストラップとクラスタの起動中に、全体的な進捗状況と各ノードの個々の進捗状況がUIに表示されます。ブートストラップの進行状況が表示されない場合は、ブラウザでページを手動で更新し、ステータスを更新してください。

クラスタが形成され、すべてのサービスが開始されるまでに最大30分かかる場合があります。クラスタの設定が完了すると、ページが Nexus ダッシュボード GUI にリロードされます。

ステップ 17 クラスタが健全であることを検証します。

クラスタが形成され、すべてのサービスが開始されるまでに最大 30 分かかる場合があります。

クラスタが使用可能になったら、ノードの管理 IP アドレスのいずれかを参照してアクセスできます。admin ユーザーのデフォルトパスワードは、最初のノードに選択した rescue-user のパスワードと同じです。この間、UI は上部に「サービスのインストールが進行中です。Nexus Dashboard の設定タスクは現在無効になっています」という意味のバナーを表示します。

NTP Host*	Key ID	Preferred
2001:420:28e:202a:5054:ff:fe6f:b3f6		true

+ Add NTP Host Name/IP Address

⚠ Could not validate one or more hosts Can not reach NTP on Management Network

すべてのクラスタが展開され、すべてのサービスが開始されたら、[概要 (Overview)] ページでクラスタが正常であることを確認できます。

The screenshot shows the Nexus Dashboard Overview page for user 'admin'. The page includes a navigation sidebar with 'Overview', 'Manage', 'Analyze', and 'Admin'. The main content area displays several health and status cards:

- Overall System Health:** OK (Green checkmark)
- Cluster Health:** OK (Green checkmark)
- Connectivity to Intersight:** Not Connected (Yellow warning icon)
- Services:** 2 services enabled on your platform. Includes 'Fabric Controller ifav19' (Healthy) and 'Insights ifav19' (Healthy).
- Sites:** 0 sites are currently onboarded on Nexus Dashboard.
- Site Connectivity to Nexus Dashboard:** 0 Total.
- Site Type:** 0 Total.
- ifav19 Nodes:** 6 Nodes are currently a part of this cluster. 6 out of 6 nodes are healthy. Includes 'ifav19-sn1 ifav19' (Healthy) and 'ifav19-sn2 ifav19' (Healthy).

または、SSH を使用し、rescue-user として、ノード展開中に指定したパスワードを使っていずれかのノードにログインし、acs health コマンドを実行してクラスタの状態を確認できます。

- クラスタが収束している間、次の出力が表示されることがあります。

```
$ acs health  
k8s install is in-progress
```

```
$ acs health  
k8s services not in desired state - [...]
```

```
$ acs health  
k8s: Etcd cluster is not ready
```

- クラスタが稼働している場合は、次の出力が表示されます。

```
$ acs health  
All components are healthy
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。